

## 県連・商工会等による支援の動き 3/11～3/20

### 3/19 宮城県・女川町商工会が商店街復幸祭を開催

女川町商店街復幸祭（町商工会主催）が18日、町総合運動公園で開かれた。焼きサンマの無料提供やご当地ヒーロー「リアスの戦士イーガー」のステージショーなど多彩な催しが繰り広げられた。

流失したJR女川駅で列車の到着と出発を告げていた「希望の鐘」を鳴らしてイベントを開始。再開を目指す店主らが出店して海産物や軽食を販売、大勢の家族連れらでにぎわった。

復幸祭は商工会の若手会員が中心になって企画した。実行委員長の阿部淳さん（37）は「町民が一つにまとまってイベントを開くことで復興への機運も高まっていくはずだ」と話した。

---

### 3/19 富山県・富山市南商工会などが地元ゆかりのイベントで復興支援

細入地域に残る円空仏にちなんだ「円空ふれあい祭り」（富山新聞社後援）は18日、富山市猪谷関所館周辺で行われ、円空仏を模した仏像の名前当てクイズや、地元の味覚を楽しむ県内外からの親子連れや地域住民でにぎわった。

祭りは今年初めて商店街に仏像を並べ、JR猪谷駅前に人を呼び込む取り組みとして富山市南商工会や猪谷商盛會が企画した。井波彫刻師が制作した観音菩薩（ぼさつ）像、不動明王像などが商店街に7体、関所館に2体並べられた。

岐阜県飛騨市神岡町で捕れたイノシシ肉をダイコンやハクサイと煮込んだシシ鍋「円空鍋」も販売され、人気を集めた。ゴマときな粉をまぶした餅も振る舞われた。出店にはラッキョウや山菜の昆布締めなど細入地域の味が並び、東日本大震災の復興支援を目的としたラーメンや菓子の販売も行われた。

祭りに合わせて関所館が無料開放された。子ども3人と訪れた富山市東猪谷の寺下紅美さん（35）は「細入を活性化させる取り組みが素晴らしいと感じた。シシ鍋もおいしい」と笑顔を見せた。

---

### 3/17 岩手県・山田町商工会などが復興イベントを開催

「復興山田がんばっぺし祭り」が17、18日午前9時～午後3時30分、岩手県山田町中央公民館で開催される。震災から1年がたち、復興の支援と山田の元気を県内外にアピールする。山田大神楽、山田境田虎舞、早池峰神楽など町内外の郷土芸能の演技のほか、タレントによるものまね、漫才がある。地元の児童・園児が踊りを披露し、子ども向けの

キャラクターショーや読み聞かせもある。各公演は無料だが、整理券を公民館入り口で配布する。山田産のカキやホタテ、北上コロッケ、岩手町の焼きうどん、秋田のきりたんぼ鍋などが出店し、三陸の海の幸や名産品を販売する。問い合わせは山田町商工会。

---

### 3/17「復興応援トラックマーケット」：福島市で報告会

全国商工会連合会が被災地支援の一環として、全国各地で東北地方の特産品を販売した「“復興応援”トラックマーケット」の報告会は十六日、福島市のJR福島駅東口駅前広場で開かれた。

全国商工会連合会の田子正太郎副会長（県商工会連合会長）が「全国の皆さんが復興を願っていることを実感した」とあいさつ。中小企業庁の徳増有治経営支援部長が祝辞を述べた。あわまんじゅうを出品した岩井屋（柳津町）の沼沢和典さんが「各地で多くの出会いがあり、元気をもらった」と成果を語った。

引き続き、田子会長と徳増部長が、全国の会場で来場者が寄せたハート型の花のオブジェ「フラワーメッセージ」を沼沢さんに手渡した。

トラックマーケットは二月九日から今月十一日まで行われた。二台のキャラバントラックがそれぞれ別ルートで全国二十五都府県を訪問し、東北と茨城県の特産品を販売した。本県からは延べ四十三社が出品された。各地では来場者から被災地へのメッセージが多数寄せられた。

---

### 3/16「復興応援トラックマーケット」：盛岡で報告式

全国商工会連合会が2、3月展開した復興応援トラックマーケット全国キャラバンの実施報告セレモニーは15日、盛岡市盛岡駅西通の県商工会連合会館で行われた。

関係者ら約20人が出席。全国商工会連合会の苧野恭成企業支援部長は「日本全国を回り、皆さんの東北を応援する気持ちを確かに預かってきた。今後も復興復旧に力を入れていきたい」とあいさつ。全国の来場者が製作したハート形のフラワーメッセージを県商工会連合会の永井英治専務理事らに贈呈した。

キャラバンは2月9日から3月11日まで、被災地を含む東北6県と茨城県の特産品を載せた2台のトラックが全国を周遊した。1台は全国の道の駅など22カ所で商品を販売。もう1台は東京都や名古屋市、神戸市など6都市でイベントを併催し、延べ95事業者が商品を販売した。

---

### 3/15「復興応援トラックマーケット」：仙台で実施報告

東北の特産品を全国に販売しながら、東日本大震災の被災地の復興支援を図る「復興応援トラックマーケット」の実施報告セレモニーが14日、仙台市青葉区の勾当台公園市民広場で開かれた。

マーケットは全国商工会連合会が企画した。トラックは2月9日から今月11日にかけて、25都府県28都市を巡回。東北6県と茨城県の157の事業者が出品した菓子や海産物などを販売し、約3800万円の売り上げがあった。

東京など6会場では、来場者が花飾りでハート形のオブジェを制作。セレモニーで、全国商工会連合会の寺田範雄専務理事が、出展事業者代表として出席した星栄商店（加美町）の星佳宏代表取締役役らにオブジェを贈呈した。

寺田専務理事は「これからも全力で支援していく」とあいさつし、星代表取締役は「来場者から温かい言葉をもらった。東北も頑張っていきたい」と話した。

---

### 3/12「復興応援トラックマーケット」：長崎県南島原市で開催

雲仙・普賢岳噴火災害の被災地、南島原市深江町の道の駅「みずなし本陣」では、復興応援トラックマーケットがあり、東北6県と茨城県の特産品を市民らが買い求めた。

大震災被災地の中小企業の事業再建を後押ししようと全国商工会連合会が主催。2台のトラック「One Heart号」が2月9日から全国の道の駅など28カ所を回り、被災地企業が製造した加工食品などを販売。「みずなし本陣」が最終地となった。

かごいっばいに購入した島原市新山1丁目の鶴川義顕さん（65）は「島原も立ち直った。日本人の魂はへこたれない」と話した。

---

### 3/12 福井県・坂井市商工会青年部が大震災チャリティー講演会を開催

プロレスラー蝶野正洋さん（48）を招いた東日本大震災復興チャリティー講演会「自分に負けない喧嘩（けんか）の仕方」（福井新聞社後援）が16日夜、坂井市のハートピア春江で開かれる。

蝶野さんは「黒のカリスマ」の異名を持つ人気レスラー。自身のファッションブランドを設立、多数の著書もあるなど多方面で活躍している。

講演会は大震災チャリティーと位置付け坂井市商工会青年部が開く。当日、会場で販売する「越前坂井 辛み蕎麦（そば）」の販売数とチケット販売枚数の数だけ、今秋に仙台市で開く予定の蝶野さん主催のチャリティーイベントで、辛み蕎麦を無料で振る舞う。

また当日は蝶野さんのブランドと辛み蕎麦のロゴをコラボしたTシャツも限定販売する。

前売りチケットは同市商工会本所とハートピア春江で1千円で販売。当日は午後5時から辛み蕎麦（1杯500円）、コラボTシャツ（1枚4千円）を販売。講演は午後7時半から。講演後にはサイン会などもある。

---

3/12 福岡県・うきは市商工会、田主丸町商工会青年部などが被災地応援募金を実施

うきは市商工会、田主丸町商工会、浮羽青年会議所（JC）とJAにじの各青年部は11日、「青年の絆隊」を編成し、うきは市と久留米市田主丸町の大型店前など6カ所で東日本大震災の被災地応援募金を実施した。

これまで団体ごとに被災地への支援活動をしてきたが、浮羽JC（椎田千代理事長）の呼び掛けで実現。計約100人が参加した。寄付金は日本赤十字社を通じて被災地に送る。

---

3/11 山形県・寒河江市商工会青年部などが復興願うイベントを開催

約2千本のろうそくの明かりが照らす中、東日本大震災からの一日も早い復興を祈る「寒河江のともしび〜とどけ！復興の想い」が10日夜、寒河江市のJR寒河江駅前みこし公園で繰り広げられた。

イベントは市商工会青年部やNPO法人グラウンドワーク寒河江、高校生ボランティアなどで作る実行委員会が主催した。

午後6時、雪でつくった高さ約2・5メートルのキャンドルタワーや通路脇のろうそくに点灯。温かい光が会場を包む中、一角のステージ上から代表者が思いを披露した。福島県南相馬市から家族と共に身を寄せている小学6年の鈴木侑生君、同4年の葉生（かんせい）君兄弟は「震災から1年間、たくさんの人たちに支えられてきた。感謝を忘れずにいつか恩返しをしたい」と力強くメッセージを発表した。

訪れた市民らは、会場に設置されたあんどんに「一緒に頑張ろう」「早く故郷に帰れますように」などと書いた紙を張り、復興への思いを託した。あんどんは3月末まで市役所に展示される。

---

3/11 「復興応援トラックマーケット」：兵庫県神戸市で開催

東日本大震災の復興を支援しようと、被災地の特産品を販売する「トラックマーケット全国キャラバン」が10日、神戸市中央区浜辺通5の神戸震災復興記念公園（みなとのもり公園）であった。東北と茨城県の14店が地元の味を紹介。震災1年となる11日も開かれる。

「被災地を元気づける一助に」と全国商工会連合会が主催。2月9日～3月11日に全国28都市を巡るという企画で、阪神・淡路大震災で被災した神戸が終点となる。

岩手の「まめぶ汁」や宮城の牛タンカレーなどご当地グルメが人気を集め、米粉入りの焼きそばを売った宮城県加美町の星佳宏さん（47）は「温かい支援に感謝の思いを伝えたい」と話した。

17年前の震災で、県庁前の自宅が半壊した鄭静枝さん（86）は「東北の報道に触れるたび、つらい経験を思い出す。一步步復興してほしい」と願った。

ステージではトークショーがあり、阪神・淡路で友人を亡くしたお笑いトリオ「安田大サーカス」の安田裕己さん（37）が登場し、東北への思いを語った。11日にはタレント眞鍋かをりさんが出演する。